

FIELD MARKETING

OCTOBER 2022

YOUNG

Kuriyama R&D Office

本資料は貴社業務の参考資料としての活用に
限定し、社外秘資料として管理して下さい。

INDEX

調査結果	1、2、3、4	柄ブラウス	30
コート	5	無地シャツ	31
レザージャケット	6	柄ワンピース	32
テーラードジャケット	7	無地ワンピース、キャミソールワンピース	33
スリーブレスジャケット	8	ミニワンピース、カットソーワンピース	34
シャツジャケット、デニムジャケット	9	デニムパンツ	35、36、37
その他のジャケット	10	スキニーパンツ	38、39
無地カットソー	11、12、13	ショートパンツ	40
グラフィックカットソー	14	ワイドパンツ	41
ワンポイントカットソー	15	ストレートパンツ	42
カレッジプリントスウェット、その他の柄カットソー	16	柄パンツ	43
無地パーカ	17	フレアパンツ、テーパードパンツ	44
グラフィックパーカ、その他のパーカ	18	その他のパンツ	45
カットソーカーディガン、その他のカットソー	19	ロング丈スカート	46、47
無地ニット	20、21、22	ミニ丈スカート	48、49
ニットカーディガン	23、24、25	ミディ丈スカート	50
ニットベスト	26	ミディ丈スカート、ジャンパースカート	51
柄ニット	27	服飾雑貨	52、53
無地ブラウス	28、29		

撮影場所：竹下通り・ラフォーレ原宿前・渋谷 109 前

撮影日：2022 年 10 月 20 日

撮影時間：11：00～14：00

天気：快晴 最高気温 20.7 度 最低気温 9.7 度

平均気温 14.7 度

サンプル数：311

調査結果

大分類	中分類	小分類	着数	大分類構成比	中分類構成比
アウター	コート	トレンチコート	5	5.7%	41.6%
		テーラードコート	2	2.3%	16.7%
		ステンカラーコート	2	2.3%	16.7%
		フードコート	2	2.3%	16.7%
		ノーカラーコート	1	1.1%	8.3%
		合計	12	13.7%	100.0%
	ジャケット	レザージャケット	16	18.2%	21.1%
		テーラードジャケット	12	13.6%	15.8%
		スリーブレスジャケット	12	13.6%	15.8%
		シャツジャケット	7	8.0%	9.2%
		デニムジャケット	6	6.8%	7.9%
		ノーカラージャケット	5	5.7%	6.6%
		カジュアルジャケット	5	5.7%	6.6%
		キルティングジャケット	3	3.4%	3.9%
		ワーク・ミリタリージャケット	3	3.4%	3.9%
		カジュアルブルゾン	3	3.4%	3.9%
		ボアブルゾン	3	3.4%	3.9%
		ファー付きジャケット	1	1.1%	1.4%
		合計	76	86.3%	100.0%
		合計	88	100.0%	—

調査結果

大分類	中分類	小分類	着数	大分類構成比	中分類構成比
トップス	カットソー	無地カットソー	62	19.9%	40.3%
		グラフィックカットソー	21	6.7%	13.6%
		ワンポイントカットソー	11	3.5%	7.1%
		カレッジプリントスウェット	7	2.2%	4.5%
		ボーダーカットソー	5	1.6%	3.3%
		総柄カットソー	1	0.3%	0.7%
		無地パーカ	12	3.9%	7.8%
		グラフィックパーカ	12	3.9%	7.8%
		その他のパーカ	7	2.2%	4.5%
		カットソーカーディガン	13	4.2%	8.4%
		その他のカットソー	3	1.0%	2.0%
	合計	154	49.4%	100.0%	
	ニット	無地ニット	45	14.4%	42.5%
		無地ニットカーディガン	38	12.2%	35.8%
		柄ニット	12	3.8%	11.3%
		ニットベスト	11	3.5%	10.4%
		合計	106	33.9%	100.0%
	シャツ&ブラウス	無地ブラウス	29	9.3%	55.8%
		柄ブラウス	5	1.6%	9.6%
		無地シャツ	13	4.2%	25.0%
		柄シャツ	3	1.0%	5.8%
スリープレストップス		2	0.6%	3.8%	
合計		52	16.7%	100.0%	
合計		312	100.0%	—	

調査結果

大分類	小分類	着数	全体構成比
ワンピース	柄ワンピース	11	32.4%
	無地ワンピース	6	17.6%
	キャミソールワンピース	5	14.7%
	ミニワンピース	5	14.7%
	カットソーワンピース	5	14.7%
	ニットワンピース	2	5.9%
	合計	34	100.0%

調査結果

大分類	中分類	小分類	着数	大分類構成比	中分類構成比
ボトムス	パンツ	デニム	37	13.4%	22.3%
		スキニー	23	8.3%	13.9%
		ショート	22	8.0%	13.3%
		ワイド	22	8.0%	13.3%
		ストレート	21	7.5%	12.6%
		フレア	14	5.1%	8.4%
		柄パンツ	12	4.3%	7.2%
		テーパード	6	2.2%	3.6%
		サロペット	6	2.2%	3.6%
		カーゴ	3	1.1%	1.8%
		合計	166	60.1%	100.0%
	スカート	ロング丈	47	17.0%	42.7%
		ミニ丈	30	10.9%	27.3%
		ミディ丈	23	8.4%	20.9%
		ジャンパースカート	10	3.6%	9.1%
		合計	110	39.9%	100.0%
	合計		276	100.0%	—

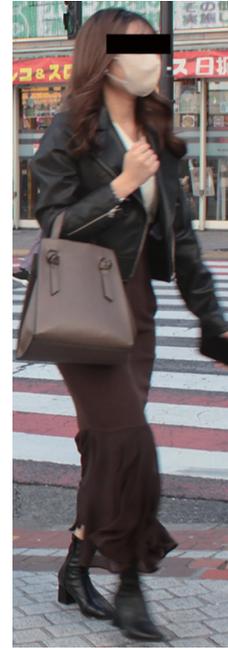
■ コート

- 調査日は最高気温が 20.7 度、最低気温が 9.7 度だった。コートの着用率はアウター着用者の 13.7%、全体では 3.9% と少なかった。前年の 2021 年はアウター着用者の 19.2%、全体では 7.8% だったことから、天候面ではほとんど変化がないものの、コートを含むアウターの着用者は減少傾向にあることが分かった。
- デザインはトレンチコートが多いものの、ステンカラーコートやテーラードコート、フーディコートなど分散化していた。
- 素材は、昨年まで多かった薄手の紡毛素材などを使用したライトコートタイプとトレンチコートなどの綿素材の両方が見られた。
- カラーはベージュが中心で、スモーキーなピンクやサックスの着用も見られた。



■ レザージャケット

- レザージャケットはジャケット着用者の21.1%が着用しており、ジャケットでは最も多くの着用者が見られたアイテムとなった。この傾向は2021年も同様であったことから、秋の定番アイテムとして定着している可能性があると思われる。
- カラーはブラックが多く着用されていたが、ベージュなどのカラーレザーの着用者も見られた。
- デザイン面ではライダースジャケットが非常に多く、コレクションなどでは様々なレザージャケットが見られたが、国内市場ではライダースが中心であることが分かった。レングスはショート丈が多く着用されていた。



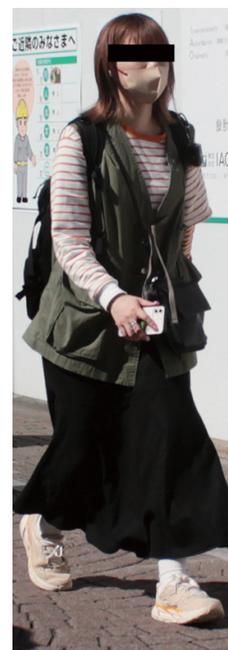
■ テーラードジャケット

- テーラードジャケットはアウター着用率2位で15.8%だった。前年の2021年も着用率は2位だった。トレンドアイテムのロングサイクル化が発生しており、ヤング市場でも順位の変化が少なくなっていると思われる。
- 店頭で多く見られたショートジャケットは少なく、レギュラーレングスのダブルブレストが多く着用されていた。
- 素材は綿、ウールのほかフクレジャカード素材、ツイード素材などが着用されていた。また、無地が多いものの、先染めチェック素材の着用者も多く見られた。



■ スリーブレスジャケット

- スリーブレスジャケットは着用の変化が最も大きなアイテムとなった。2021年10月には着用者が見られなかったが、2022年4月の調査ではジャケットの着用率1位となった。今回の調査では、テーラードジャケットと並んで着用率は2位となっていた。
- デザイン面でも、2022年4月の調査では、スリーブレスジャケットやジレが大半であったが、今回のリサーチでは、ファーベスト、ジレ、ユーティリティベスト、ダウンベストなどさまざまなデザインが着用されていた。
- 2023年以降も、特定のデザインではなく、ノースリーブアウター全体の傾向として注目する必要があると考えられる。



■ シャツジャケット

- ・ シャツジャケットは 2022 年春の着用率 9.3% に対し今回は 9.2% とほぼ同じ着用率となっていた。フラップポケット付きのCPO ジャケットタイプのデザインが多く見られた。
- ・ カラーはオフホワイトやベージュなどナチュラル系カラーが多く、素材はカジュアルな綿素材のほか、紡毛素材やコーデュロイ素材の活用も見られた。



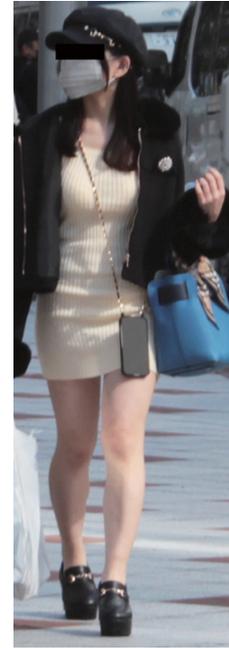
■ デニムジャケット

- ・ デニムジャケットの着用率は 2022 年 4 月の 9.3% に対して、今回は 7.9% と減少していた。トレンド面では非常に注目度が高く、店頭での展開も増加しているが着用者は増加していないアイテムとなっていた。
- ・ デザイン面ではショート丈のジージャンタイプが多いが、ルーズなシルエットのシャツジャケットなどの着用者も見られた。



■ その他のジャケット

- ・着用者は少ないものの、さまざまなデザインのジャケットが着用されていた。2021年との比較で目立ったのは、2021年に9.5%(アウター3位)の着用だったボアジャケットが今回のリサーチでは3.9%と少なかった点である。
- ・そのほか、キルトジャケットやスタジアムジャンパー、ノーカラージャケット、ミリタリージャケットなどさまざまなデザインが見られた。



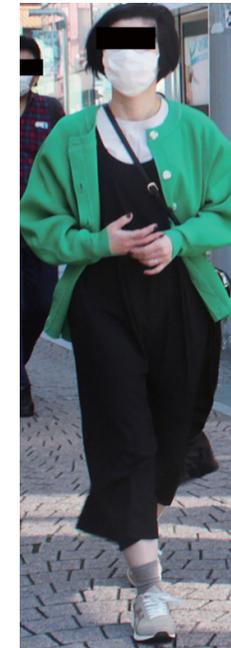
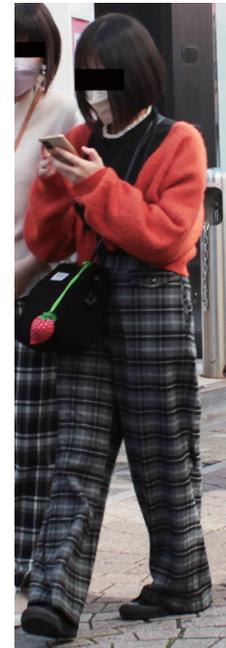
■ 無地カットソー①

- 今回のリサーチ結果では、トップスの着用率で、カットソーは49.4%、ニットは33.9%、シャツ&ブラウスは16.7%という結果だった。2021年10月の調査では、カットソーは36.3%、ニットは45.4%、シャツ&ブラウスは18.3%だったことから、前年比ではカットソーは大幅な増加、ニットは減少、シャツ&ブラウスはやや減少という結果となった。
- 無地のカットソー着用者は2021年の48名から62名に増加していた。着用はコートやジャケット、カーディガンなどのインナーとしての着用と単品トップスの着用に2分されていた。
- インナーとしての着用はシンプルなクルーネックが多く着用されていたが、フリルネックやボトルネックなどの衿周りのデザイン変化も見られた。
- カラーはホワイトが多く、続いてブラックが着用されていた。
- 夏から秋に注目されていた、半袖トップスにアームカバーをコーディネートするスタイルも見られた。



■ 無地カットソー②

- インナーとしてのカットソー着用では、ジャケットやコートインンのほか、カーディガン、プルオーバー、ベストのインナーとしての着用が多く見られた。
- 2022年夏のトレンドとなっていたY2Kの影響は秋冬でも継続しており、ショート丈トップスの着用も見られた。
- レイヤードはニットプルオーバーとカットソーTシャツのコーディネートでも多く見られ、ホワイトのTシャツを利用した裾レイヤードが見られた。
- インナーとしての着用の場合は、ホワイトのロングスリーブTシャツが多く着用されていた。



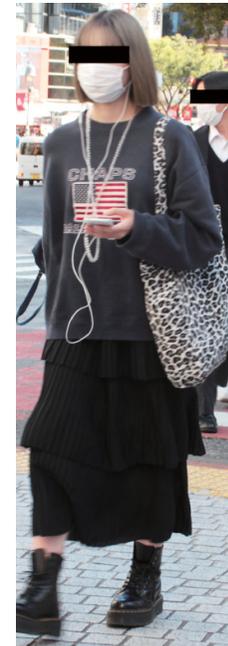
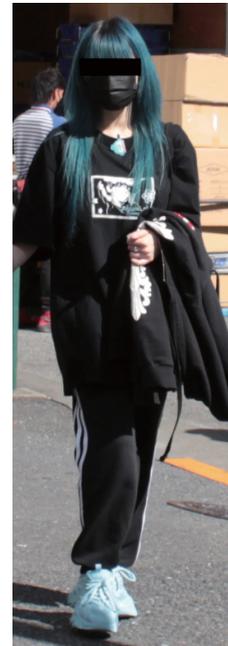
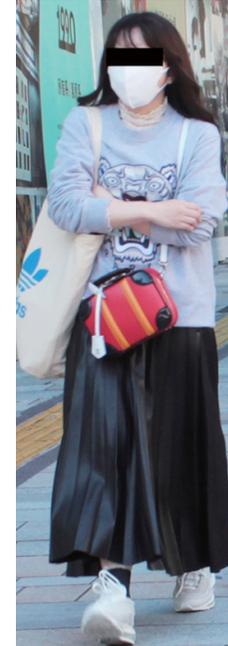
■ 無地カットソー③

- 単品トップスとしてのカットソー着用では、コンパクトなシルエットも見られたが、全体的にはゆったりとしたルーズシルエットのスウェットなどが多く着用されていた。
- 素材は綿の裏毛素材やスムーズ素材など中肉でボリューム感のある素材が多く着用されていた。
- カラーはホワイトやオフホワイトが中心でブラックも多く着用されていた。その他のカラーの着用者はわずかだった。



■ グラフィックカットソー

- ・ ヤングではスウェットやTシャツのフロント部分にグラフィックのプリントなどを施したトップスの着用率が無地のトップスに次いで多く 21名の着用が見られた。
- ・ ストリート系のグラフィックも多く、コーディネートもカラーパンツやミニ丈のプリーツスカートなどトレンド性の感じられるものも多く見られた。
- ・ 話題の派手髪も見られ、Z世代ならではのトレンド感が感じられるものとなっていた。



■ ワンポイントカットソー

- 胸元などにワンポイントのプリントや刺繍を施したカットソートップスも 11 名に着用されていた。
- カラーはホワイトとブラックが多くその他ではグレーやブルーなどが着用されていた。
- 素材は大半が裏毛素材などの中肉でボリューム感のある素材が活用されていた。
- 単品トップスとしての着用のほか、ブルゾンやベストのインナーとしての着用も見られた。



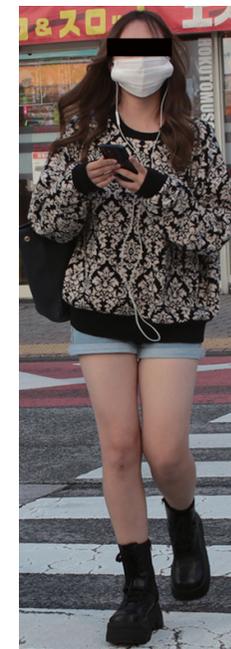
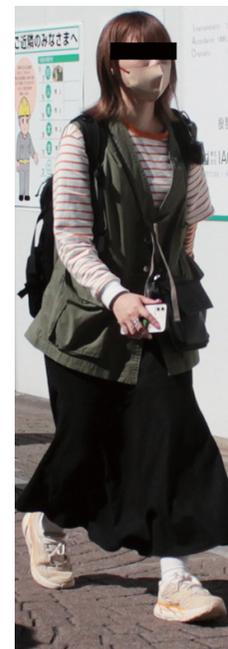
■ カレッジプリントスウェット

- ・ 数シーズン前より継続して人気のカレッジテイストのフロントプリントを施したスウェットが今シーズンも見られた。
- ・ 他のアイテムはホワイトやブラックが多く見られたが、カレッジプリントはトップグレーやサックスブルーなどが着用されており、店頭ではネイビーやグリーンなどのトラッドカラーが展開されていた。



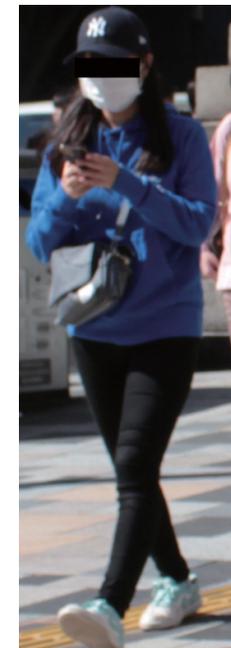
■ その他の柄カットソー

- ・ ボーダーも前年に続き着用が見られた。マルチボーダーなどの着用は見られず、モノトーンやホワイト×レッドのバイカラーボーダーなどシンプルなボーダーが着用されていた。
- ・ ボーダー以外では、総柄プリントなども見られたが着用はわずかだった。
- ・ 単品トップスとしての着こなしのほか、インナーとしての着用も見られた。



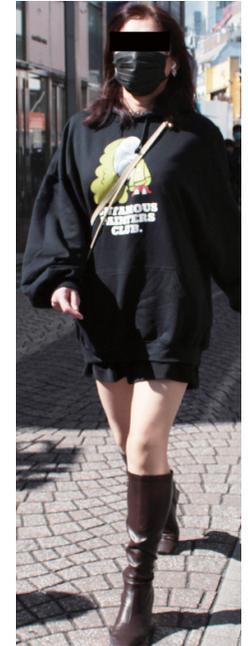
■ 無地パーカ

- パーカの着用者は 2021 年 10 月のリサーチでは 15 名だったが、今回のリサーチでは 31 名と倍増していた。
- 2021 年 10 月のリサーチでは、インナーにリボンブラウスをコーディネートしたフェミニンテイストなどが見られたが今シーズンはフリルをあしらったデザインの着用が見られた。
- カラーはホワイトやオフホワイトを中心にグレーやカーキなどのベーシックカラー、ピンクやブルーなどのブライトカラーなどが着用されていた。



■ グラフィックパーカ

- ・ スウェットトップス同様、パーカでもカレッジテイストのグラフィックプリント、ワンポイントプリント、スポーツブランドロゴなどの着用が見られた。
- ・ 着こなしはカジュアルが多く、ルーズシルエットのパーカにマイクロミニスカートのコーディネートも見られた。



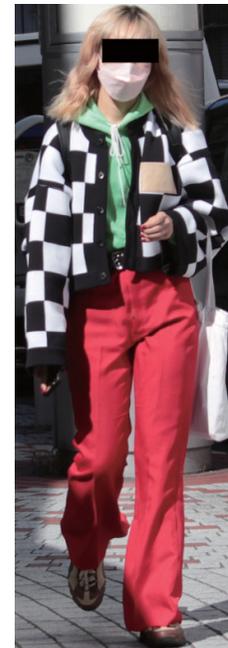
■ その他のパーカ

- ・ パーカの場合はプルオーバータイプが多かったが、フロントフルジップやショート丈パーカの着用が少数ながら見られた。



■ カットソーカーディガン

- 2021年には着用が見られなかったカットソーカーディガンは、2022年春物から登場し、今回のリサーチでは13名の着用となった。
- 春にも見られた裏毛素材などを使用したUネックのカーディガンのほか、ニットで注目されるボレロ調カーディガンがカットソーでも着用されていた。
- カラーはベーシックカラーに加えグリーンなどのビビッドカラー、柄では市松柄や花柄プリントの総柄なども着用されていた。



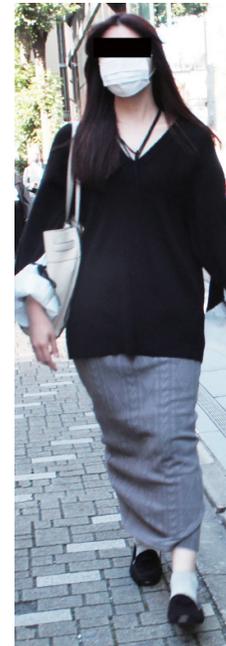
■ その他のカットソー

- 着用者は3名とわずかだったが店頭で多くの展開が行われている、ジップアップの襟付きカットソーの着用が見られた。
- 注目アイテムの1つであり、今後の増加の可能性があるアイテムであると思われる。



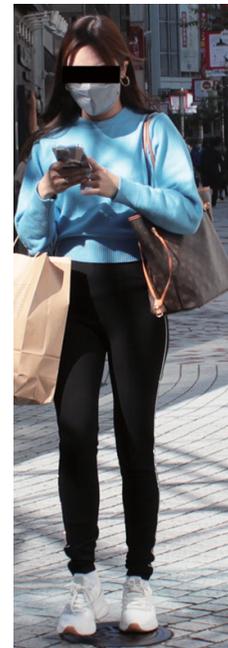
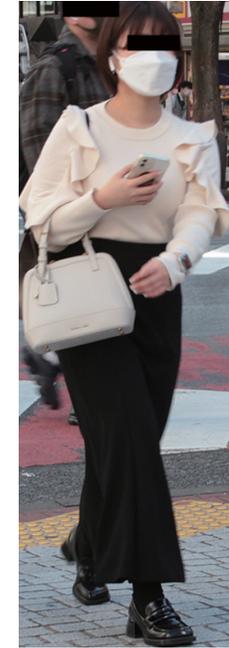
■ 無地ニット①

- ニットの着用率は2021年がトップスの45.4%だったのに対し、今回のリサーチでは33.9%で大幅な減少となった。
- 無地のプルオーバーが最も多く着用されており、今回はニット着用者106名中45名の着用だった。
- 単品トップスでは多くの人が着用していたのはシンプルなデザインでルーズシルエットのニットプルオーバーだった。
- ブラックの着用者が多く、その他、オフホワイトやスモーキーなパステルカラー、ブラウンなどが着用されていた。
- ミドルゲージのニットが多く、クルーネックやボトルネック、タートルネックの着用者が多かった。



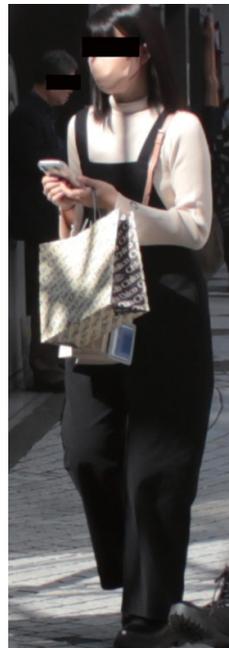
■ 無地ニット②

- ルーズシルエットのニットプルオーバー以外では、ショート丈のプルオーバー、袖ボリュームのニットプルオーバー、Vネックプルオーバー、配色ステッチアクセントのプルオーバーなどさまざまなデザインプルオーバーが着用されていた。
- ショート丈プルオーバーではインナーにTシャツやシャツをコーディネートして裾を出すレイヤードコーディネートも見られた。
- 編地ではケーブルや畦などのミドルゲージの編地が着用されていた。



■ 無地ニット③

- 単品トップスとしてのニットのほか、インナーとしてのニット着用も多かった。
- コート、ジャケット、ベスト、ジャンパースカートなどさまざまなアウターのインナーとしてニットプルオーバーが着用されていた。
- ファインゲージが多かったが、一部、ざっくりとしたミドルゲージのニットプルオーバーも着用されていた。
- 襟もとにはクルーネック、Vネックのほか、ボトルネック、タートルネックが多く着用されていた。



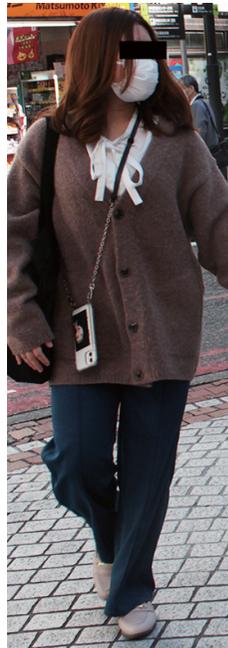
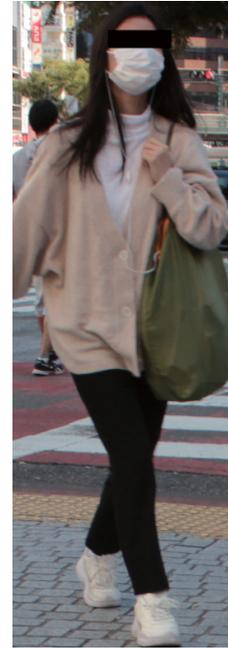
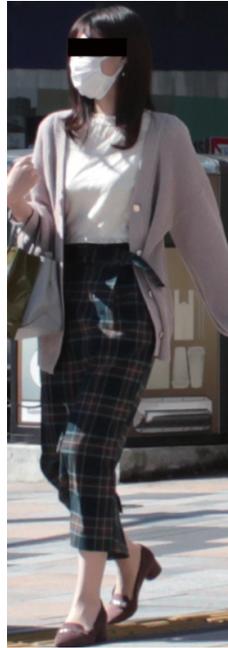
■ ニットカーディガン①

- ・ ニットではプルオーバーの着用者が45名で最も多かったが、第2位がカーディガンで着用者は38名だった。
- ・ カーディガンの丈はショートからロングまで様々なレングスのものが着用されていた。
- ・ ケーブルやアラン柄などのミドル～コースゲージのベーシックカーディガンが多く着用されていた。店頭でも増加しているヘアリーヤーンのカーディガンも着用が見られた。
- ・ UネックとVネックの2タイプのカーディガンが着用されており、ボタンではメタル釦などの活用も見られた。



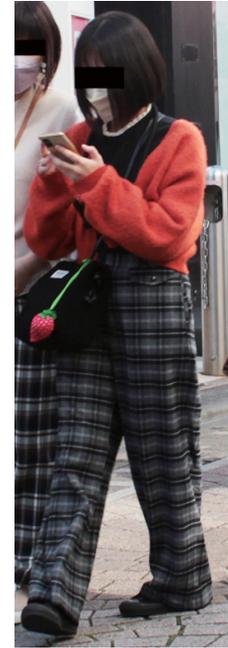
■ ニットカーディガン②

- カーディガンではヒップ丈からロング丈のカーディガンの着用も見られた。
- カラーはホワイト、オフホワイト、ベージュ、グレーなどのベーシックカラーのほか、ラベンダーやサックスブルーなどのウインターパステルの着用も見られた。
- ウールのストレートヤーンのほか、ヘアリーヤーンやブークレーヤーンなどの意匠糸の活用も見られた。



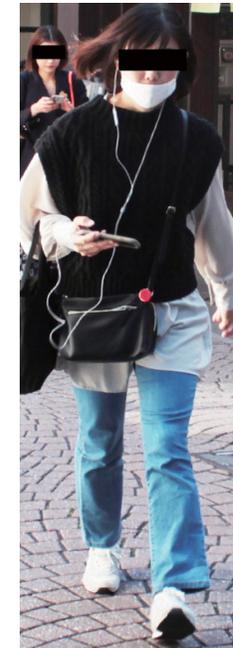
■ ニットカーディガン③

- ヤング市場ということもあり、トレンドのショート丈カーディガンやボレロニットカーディガンの着用も見られた。
- デニムとコーディネートした Y2K テイストのほか、インナーにブラウスを着用しティアードスカートとあわせたフェミニンスタイルも見られた。
- カラーはベーシックカラーのほかブライトカラー、パステルカラーが活用されていた。



■ ニットベスト

- ニットベストの着用率は2021年がトップスの3.4%だったのに対し、今回のリサーチでは3.5%と、ほとんど同じ着用率だった。
- インナーにホワイトのTシャツやシャツを着用し、ブラックのニットベストをコーディネートする人が多く見られた。
- そのほかオフホワイトやチェック柄のニットベストが着用されていた。



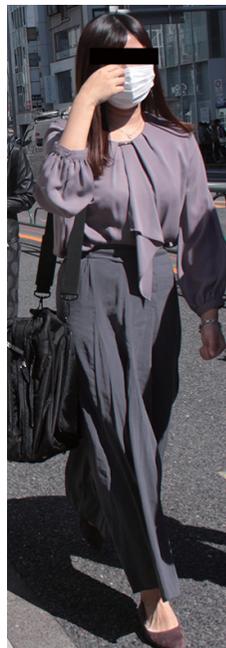
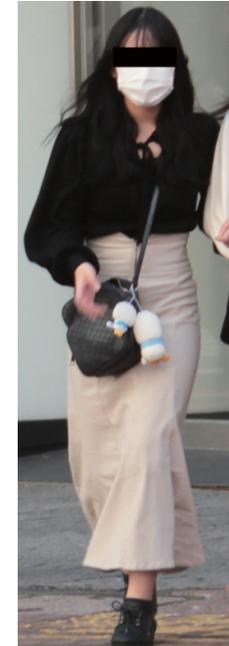
■ 柄ニット

- プルオーバーやカーディガンで柄物のニットを着用する人も見られた。
- 2021年に多かったモノトーンのシャネル風カーディガンやセットアップは見られず、さまざまな柄の傾向が見られた。
- ボーダーやブロックチェック、アーガイルなどのオーセンティックな柄のほか、花やチョウなどのモチーフ柄、エスニック調の総柄などが着用されていた。昨年から継続されているグラデーションニットも見られた。



■ 無地ブラウス①

- ・ シャツ & ブラウスの着用率は 2021 年の 18.3% に対し、今シーズンは 16.7% で、微減となっていた。
- ・ 無地ブラウスに関しては 2021 年の 27 名から 29 名と 2 名の増加となっていた。
- ・ 着用には単品トップスの着用とインナーとしての着用の 2 つの着用が見られた。
- ・ 単品トップスとしての着用ではフリルやギャザーを取り入れたデザインが見られたほか、トレンドの表面変化素材の活用も見られた。
- ・ カラーはホワイトが多く、その他、ブラックやラベンダー、ブラウンなどのカラーが着用されていた。



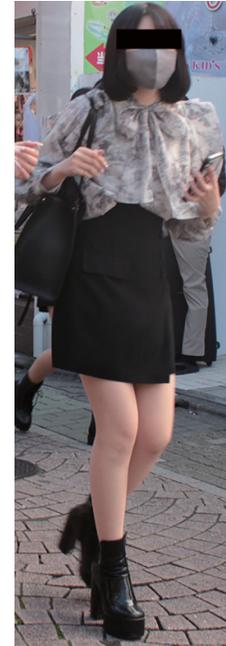
■ 無地ブラウス②

- ・ インナーとしてのブラウス着用の場合、アウターはカーディガンやベストが多く、そのほか、ファーベスト、ライダースジャケット、コートインとしての着用などが見られた。
- ・ 襟もとにリボンやビッグ襟などのデザインポイントのあるブラウスが多く着用されていた。
- ・ パンツとのコーディネートが多かったがミニスカートのスタイルも見られた。



■ 柄ブラウス

- 着用者数は5名のみと少なかったが柄物のブラウスの着用が見られた。
- レース、ドットプリント、花柄、先染めチェック柄が着用されていた。
- ボウタイやリボン、フリル衿などのフェミニンなデザインが多く見られた。



■ 無地シャツ

- 2022年春に着用者が増加したシャツだが、今回のリサーチではブラウス34名に対し、シャツ16名という結果となった。2022年4月のリサーチではシャツ着用者が63名だったことから大幅な着用者の減少となった。
- ただし、2021年秋のリサーチと比較すると変化は見られないため、23年春には再びシャツの重要性が高まる可能性があると思われる。
- 背景としては、シャツを単品トップスで着用する人が少なく、大半がインナー着用となっていたためだと考えられる。
- コーディネートアイテムとしては、秋コート、カーディガン、ベスト、ニットプルオーバーなどさまざまなアイテムが活用されていた。



■ 柄ワンピース

- ワンピースの着用者は 2021 年 10 月が 57 名だったのに対し、今シーズンは 34 名と大幅な着用者の減少となった。また、2022 年 4 月は 46 名、6 月は 85 名と着用者が多いアイテムだった。
- 外出シーンが増加していることからワンピースの着用者は増加すると予想されたが減少に転じてしまった。
- ワンピースでは昨年同様、柄物のワンピースの着用者が最も多く見られた。柄傾向としては、ホワイトベース、ダークカラーベースの花柄プリントや先染めチェック柄が着用されていた。
- ミディ丈やロング丈が多かったが、ニーレングスのワンピースの着用も見られた。



■ 無地ワンピース

- ・ 無地ワンピースでは、トレンドのタイトシルエットは見られず、フィット＆フレアーの着用が多かった。
- ・ カラーはオフホワイトやベージュが多く着用されていた。ダンガリー素材を使用したワンピースも見られた。



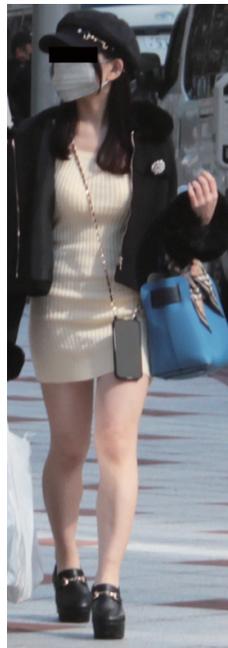
■ キャミソールワンピース

- ・ 2021年には着用が見られなかったキャミソールドレスだが、今回のリサーチでは5名の着用が見られた。
- ・ インナーにカットソーのトップスを着用している人が多く、レングスはミディ丈が着用されていた。タイトシルエットのキャミソールドレスではロングスリットの入ったデザインも見られた。



■ ミニワンピース

- ・トレンド面で注目されるミニワンピースは、2021年の着用者が11名だったのに対し、今シーズンのリサーチでは5名と着用者数が減少していた。
- ・新型コロナウイルスへの対応が新たな局面を迎え、ワンピースやブラウス、スカートなどが増加に転じると予測されたが、今回の調査ではそのような傾向は見られず、2023年以降の変化に期待する必要があると思われた。



■ カットソーワンピース

- ・2021年10月のリサーチでは13名が着用していたカットソーワンピースも今回の調査では5名と減少していた。
- ・特にミニ丈のカットソーワンピースは2021年の7名から3名と半数以下となった。
- ・店頭で注目された、ルーズなフーディトップスとタイトミニスカートを組み合わせたワンピースの着用などは見られず、ヤングのマーケットのコンサバ化が進んでいる可能性があるように思われた。



■ デニムパンツ①

- パンツ対スカートの着用率では、2021年がパンツ 57.8% に対しスカート 42.2% だったのに対し、今回のリサーチではパンツ 60.1%、スカート 39.9% という結果となり、パンツ着用者がわずかだが増加するという結果となった。
- 新型コロナウイルスが流行した2020年から増加していたストレートパンツは2021年10月にはパンツ着用率で1位だったが、今回のリサーチでは5位となった。
- 今回のリサーチで最も着用者が多かったパンツは2021年には2位だったデニムパンツとなった。ただし、デザインバリエーションが拡大したこともあり、デニムパンツ着用者は2021年の40名から37名に3名の減少となっていた。
- デニムパンツではワイドパンツの着用者が多く見られた。ライトブルー系のウォッシュデニムが多かったが、ローライズなどは見られなかった。



■ デニムパンツ②

- ・ スキニーデニムパンツの着用者も多く見られた。夏の着用は減少していたが、やや復活傾向にあると思われた。
- ・ ライトブルーデニムのほか店頭で増加しているブラックデニムの着用も見られた。



■ デニムパンツ③

- ・ 昨年まで多かったストレートシルエットのデニムパンツは減少していると思われた。ライトブルーデニムからワンウォッシュデニムまで様々なカラーのデニムが着用されていた。
- ・ 2022年夏に多かったクラッシュデニムやペイントされたデニムなどは見られず、全体的にコンサバティブなデザインが多く着用されていた。



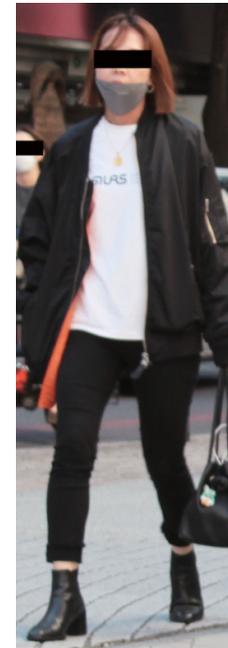
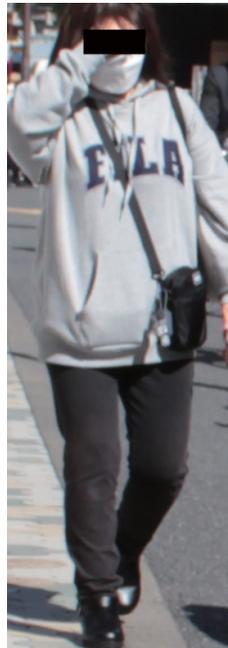
■ デニムパンツ④

- 着用者の数は少なかったがデニムのフレアパンツの着用者も見られた。
- 店頭でもヤングの売場では増加傾向にあり、今後はさらなる増加も予想される。
- ウォッシュされたライトブルーデニムが多いものの、ワンウォッシュの濃色デニムも見られた。



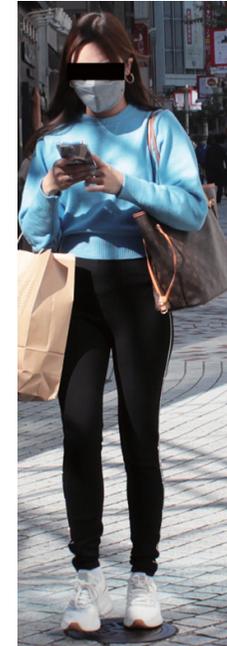
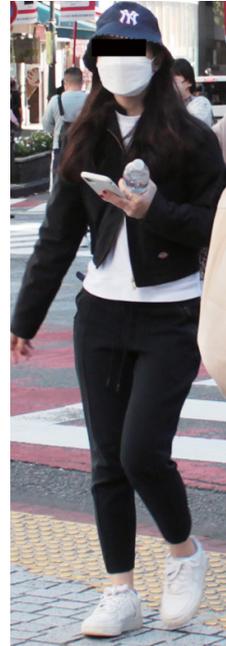
■ スキニーパンツ①

- 夏のリサーチでは、15名と減少したスキニーパンツが今シーズンのリサーチでは23名と再び増加に転じていた。
- ブラックのスキニーパンツが多く、そのほかのカラーではホワイトやベージュの着用が見られた。
- コンパクトシルエットのトップスなどの着用は見られず、ルーズなカジュアルアウターなどとの着用が多く見られた。



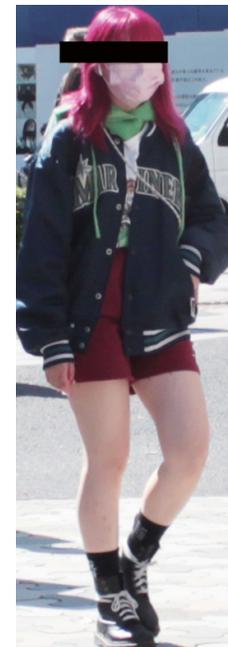
■ スキニーパンツ②

- スキニーパンツでは、レギンスやレギパンのようなストレッチ素材を使用したスキニーパンツの着用者も多く見られた。
- ブラックが大半であるが、ブルーなどのカラーの着用も見られた。



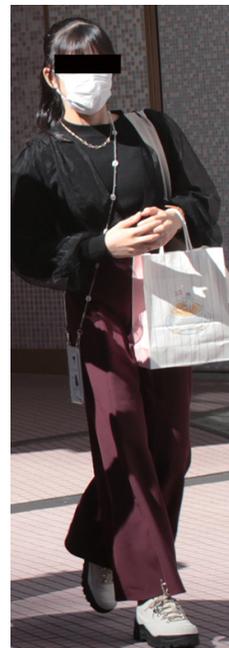
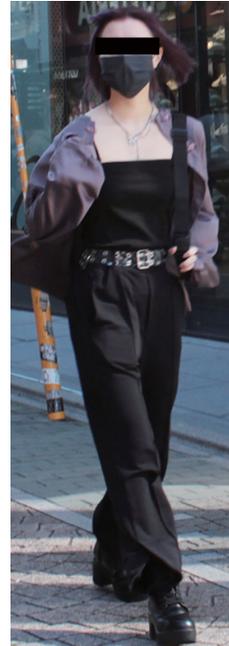
■ ショートパンツ

- ・ ショートパンツの着用者は 22 名で、2021 年 10 月の 6 名から大幅な増加となっていた。この傾向は 2022 年夏のリサーチからの継続であり、ヤング市場においてショートパンツは注目すべきアイテムとなっている。
- ・ 2021 年はウエストにタックを入れたボリューム感のあるショートパンツが見られたが、今回のリサーチでは見られず、コンパクトなショートパンツが主流となっていた。
- ・ ブラックが多く、それ以外ではホワイトやレッドが着用されていた。夏よりは少なかったがデニムのショートパンツも見られた。
- ・ コーディネートではスニーカーやショートブーツ、ロングブーツを使用したスタイルが多かった。



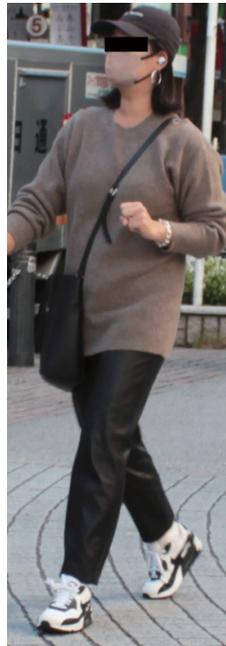
■ ワイドパンツ

- ワイドパンツは2021年10月の9名から、今シーズンのリサーチでは22名と大幅な増加となっていた。
- カラーはブラックのほか、ベージュや、ブラウン、さらに、オレンジ、グリーン、ブルーなどのブライトカラーのカラーパンツも多く着用されていた。
- 素材は、カジュアルなコットン素材も見られたが、全体的にはドレープ性に優れた合繊素材を着用する人が多かった。
- 一部、ボリュームのあるスカパンの着用も見られた。



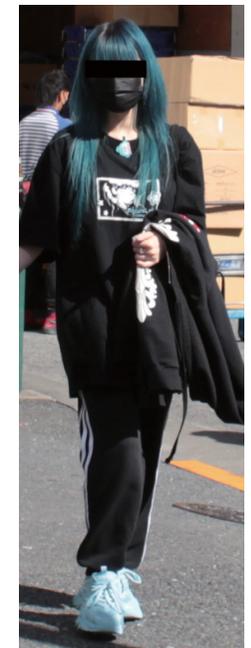
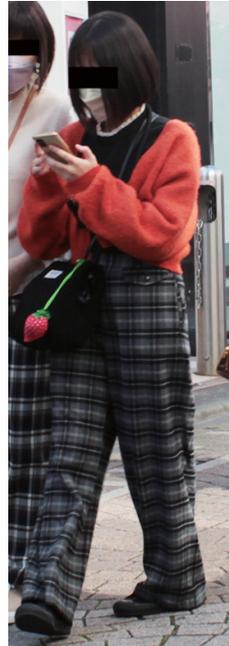
■ ストレートパンツ

- 2021年10月のリサーチで44名の着用があり着用率が1位だったストレートパンツだが、今回のリサーチでは着用者が21名で前年の半数以下となっていた。
- ストレートパンツの中でもスリムストレートはやや少なくワイドストレートの方が多く着用されていた。
- カラーはホワイトが多く、そのほかブラックなどのベーシックカラーが着用されていたが、ピンクやグリーンなどのカラーパンツも見られた。



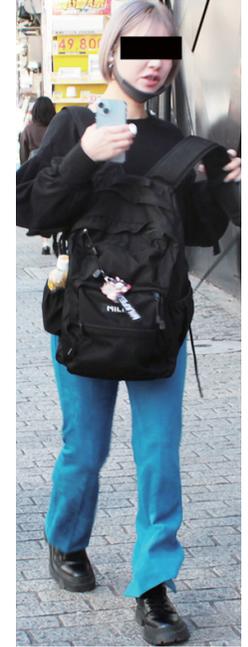
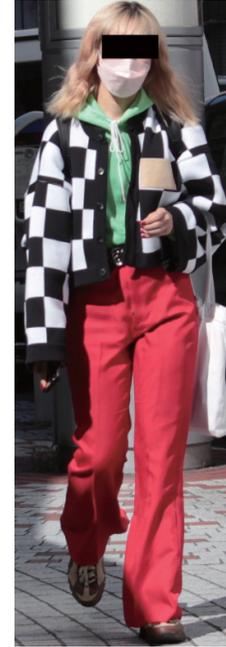
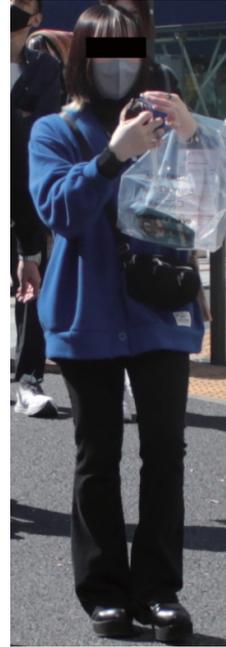
■ 柄パンツ

- ワイドパンツやワイドストレートシルエットのパンツでは柄物のパンツ着用も数多く見られた。
- 先染めチェックが多かったが、そのほか、タイダイなどのボカシ柄やポップなカラーの柄パンツの着用も見られた。



■ フレアパンツ

- フレアパンツの着用者は 2021 年 10 月と同じ 14 名の着用者数だった。
- フレアパンツでもベーシックカラーに加えて、レッドやブルーなどのビビッドカラーの着用が見られた。



■ テーパードパンツ

- テーパードパンツは 2021 年 10 月の 8 名に対して、今シーズンのリサーチでは 6 名と減少していた。
- キャリアでは一定の着用が見られるテーパードパンツだがヤングでは少数派の着用アイテムとなっている。



■ その他のパンツ

- その他のパンツでは、サロペットの着用者が6名で2021年と同数の着用となっていた。
- 着用者は3名だったが、店頭で増加しているカーゴパンツの着用が見られた。店頭展開と実際の着用にはタイムラグが発生する場合も多く、今後は着用者が増加すると考えられる。



■ ロング丈スカート①

- ・ スカートの着用率は 2021 年 10 月の 42.2% から今回は 39.9% と、2.3% の着用率の減少という結果となった。
- ・ スカートのレングス別に見た順位では、2021 年 10 月が、1 位ロング、2 位ミディ、3 位ミニであったのに対し、今回のリサーチでは、1 位ロング、2 位ミニ、3 位ミディという結果であり、ミニとミディの順位が入れ替わった結果となった。
- ・ ロングスカートは 2021 年と同じように着用率は 1 位だが、2021 年 10 月は 33 名の着用者数であったのに対し、今回は 47 名と 14 名の増加となっていた。
- ・ ロング丈はミモレ又はマキシ丈のスカートであり、タイトシルエットは少なく、フレアスカートやプリーツスカート、マーメイドスカート、ティアードスカートなどによって構成されていた。
- ・ カラーはブラックが多く、そのほかホワイトやブラウン、キャメル、ターコイズブルーなどの着用が見られた。



■ ロング丈スカート②

- ロングスカートでは無地のほか、柄素材のスカートも数多く着用されていた。
- 花モチーフのレースやプリント素材、先染めチェック素材、ジャカード素材などさまざまな柄素材が使用されていた。
- 柄スカートの場合ではタイトシルエットは少なくフレアスカートが多く着用されていた。



■ ミニ丈スカート①

- ミニ丈スカートの着用者は 2021 年の 3 位から今シーズンは 2 位に上昇したが、着用者数は 2021 年も今シーズンも 30 名と同じだった。
- デニムなどはほとんど見られず、ウール素材やツイード、エコレザ、エコスエードなどが使用されていた。TW 素材などのプリーツスカートも着用されていた。
- 足元ではショートパンツやロングブーツなどのブーツコーディネートが多く見られた。



■ ミニ丈スカート②

- ミニ丈スカートでは先染めチェックやアニマル柄、ゴブランジャカードなどの柄ものスカートの着用も見られた。
- ミニスカートではブラックのタイツを使用している人も見られたが大半は生足にミニスカートを着用していた。インにサイクルパンツなどのインナーパンツを着用している場合も多いと思われる。



■ ミディ丈スカート①

- ミディ丈スカートは 2021 年 10 月の着用者が 31 名だったのに対し、今シーズンの着用者は 23 名と大幅に減少していた。
- ミディスカートは一昨年までは長期間、着用率が 1 位だったが、飽和化が進みレングスのバリエーションが拡大しているために着用率が低下傾向にあると考えられる。
- ミディ丈スカートではフレアスカートが減少傾向にあり、タイトシルエットやマーメイドシルエットのスカートの着用者が増加していた。
- カラーはブラックが多く、その他にもベーシックカラーが中心となっていた。
- 素材はウールが中心でエコレザーやデニムなどの活用も見られた。



■ ミディ丈スカート②

- ・ ミディ丈スカートでは柄物のスカートの着用も見られた。
- ・ 柄傾向は花柄、ドット柄、先染めチェック柄などが着用されていた。
- ・ シルエットはタイトシルエット、フレアーシルエット共に見られた。



■ ジャンパースカート

- ・ ジャンパースカートは 2021 年 10 月の着用者が 13 名だったのに対し、今シーズンは 10 名の着用で着用者は 3 名の減少だったが、年間を通して安定したアイテムとして着用されている。
- ・ インナーにブラウスやカットソーを着用し、アウターにはジャケットやカーディガンを羽織るといったスタイルが多く見られた。



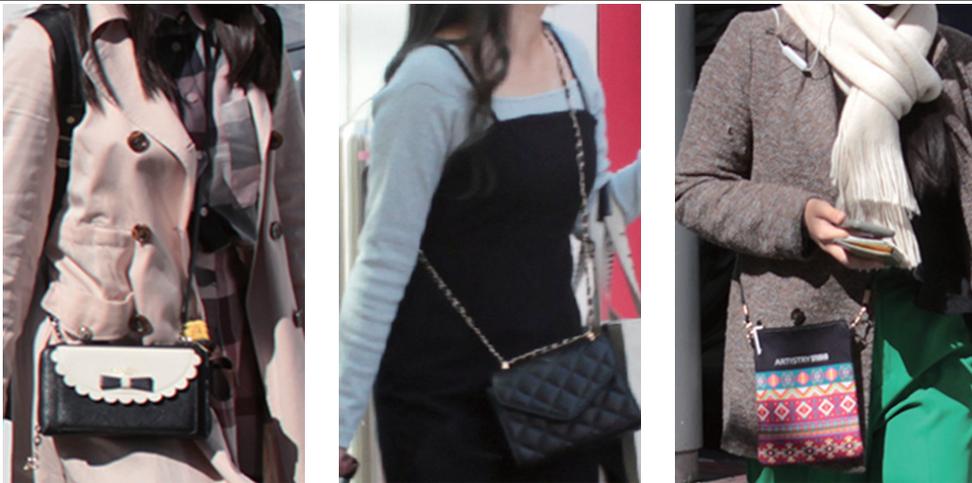
BAG

ショルダーバッグ 129 51.6%
 ハントバッグ 32 12.8%

トートバッグ 67 26.8%
 リュック 22 8.8%

合計 250

ショルダーバッグ



トートバッグ



ハントバッグ



リュック



2022 OCTOBER YOUNG FIELD MARKETING

SHOES					HAT&CAP			
スニーカー	135	48.0%	ショートブーツ	75	26.7%	ベースボールキャップ	14	合計 21
パンプス	34	12.1%	ロングブーツ	25	8.9%	バケットハット	10	
ローファー	12	4.3%				ベレー	4	
						ハンチング	3	
合計					281			

スニーカー



ショートブーツ



パンプス



ロングブーツ



HAIR STYLE



FIELD MARKETING

OCTOBER 2022

YOUNG

– PICTURE LIST –

2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

トレンチコート



テーラードコート



ステンカラーコート



フードコート



ノーカラーコート



レザージャケット



レザージャケット

テーラードジャケット



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

テーラードジャケット



スリーブレスジャケット



スリーブレス シャツジャケット



デニムジャケット



デニムジャケット ノーカラージャケット



カジュアルジャケット



キルティングジャケット



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

キルティング ワーク・ミリタリージャケット



ボアブルゾン



カジュアルブルゾン



ファー付ジャケット



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地カットソー



無地カットソー



無地カットソー



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地カットソー



無地カットソー



グラフィックカットソー

グラフィックカットソー



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

グラフィックカットソー



ワンポイントカットソー



ワンポイントカットソー



カレッジプリントスウェット



ボーダーカットソー



ボーダーカットソー



総柄カットソー



無地パーカ



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地パーカ



グラフィックパーカ



グラフィックパーカ その他のパーカ



カットソーカーディガン

カットソーカーディガン



その他のカットソー



無地ニット



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地ニット



無地ニット



無地ニット



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地ニット



無地ニットカーディガン

無地ニットカーディガン



無地ニットカーディガン



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地ニットカーディガン



柄ニット



柄ニット

ニットバスト



無地ブラウス



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

無地ブラウス



無地ブラウス



柄ブラウス



無地シャツ



無地シャツ



柄シャツ



スリーブレストップス



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

柄ワンピース



無地ワンピース

無地ワンピース



キャミソールワンピース

ミニワンピース

ミニワンピース カットソーワンピース



ニットソーワンピース

2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

デニムパンツ



デニムパンツ



デニムパンツ



スキニーパンツ



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

スキニーパンツ



スキニーパンツ



ショートパンツ



ショートパンツ



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

ショートパンツ



ワイドパンツ

ワイドパンツ



ストレートパンツ



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

ストレートパンツ



フレアパンツ

フレアパンツ



柄パンツ

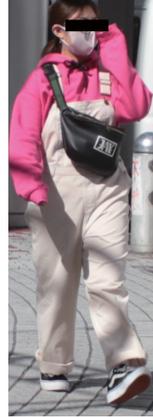
柄パンツ

テーパードパンツ



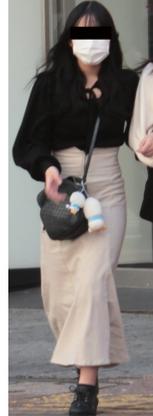
2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

テーパード サロペット



カーゴパンツ

ロング丈スカート



ロング丈スカート



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

ロング丈スカート



ロング丈スカート



ミニ丈スカート



ミニ丈スカート



2022 OCTOBER YOUNG PICTURE LIST

ミニ丈スカート



ミディ丈スカート

ミディ丈スカート



ミディ丈スカート

ジャンパースカート



ジャンパースカート

